

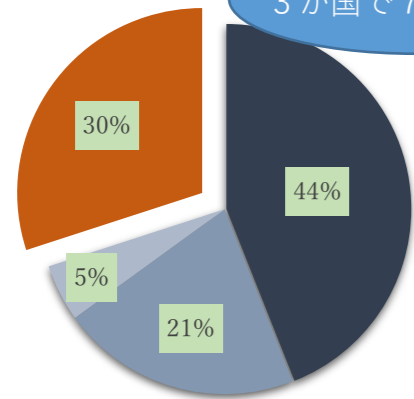
外国人等世帯を対象とした家庭教育支援について

練馬区の外国人の現状

練馬区在留外国人上位3か国の割合と傾向

(全体：約21,000人)

3か国で7割占める



■中国 ■韓国 ■比 ■その他

国籍	主な在留資格	特筆事項
中国	留学	令和4年で1万人突破か
韓国	就労関係	定住傾向
フィリピン	身分・地位	在留資格の9割が身分・地位 (永住者、日本人の配偶者等)

練馬区全体の在留外国人の増加要因は、「留学」と「就労関係」が顕著

※ 日本に留学 → 約3割の外国人は日本の企業に就職 (日本学生支援機構調査)

外国人就労者(増) → 定住者(増) → 日本で子育て、育児する人(増)
→ **今後、外国人児童・保護者等の家庭教育へのサポートが必要**

家庭教育等に関する課題等の調査

- 家庭教育等に関する課題について現場の声等を把握するため、外国人児童等が特に多いとされる園・学校等に赴き、聞き取り調査を実施

—協力していただいた施設—

光が丘春の風小学校、開進第三小学校、南田中保育園、地域振興課中国語相談員、練馬総合福祉事務所援護係、ボランティア日本語教室「みんなのにほんご教室」、「同歩会日本語教室」

調査から見た課題等

[調査園(校)に見られた主な傾向]

- 児童の母、あるいは両親が日本語不自由な場合あり。一部の人は日本語を勉強する意思がないこともある。
- 園(校)では日本語だが、家では母国語であるなど、日本語が上達しにくい環境の場合もある。
- 就学にあたって何を準備すればいいのかわかっていないことが多い。

[文化の違い]

- 中国では、祖父母が育児や世話をすることが多くある。
- 子どもの「教育」に対して関心が薄い家庭もあり、子どもを働き手として見るといったこともある。
- 日本の学校や文化、慣習を知らずにやってくるケースもある。

[先生、職員からの意見等]

- 家庭が何に対して一番困っているか知りたい。
- 自分の名前は、日本語で分かるようになってほしい。
- 園(校)がどこまで踏み込んでやったらいいかわからない。
- 就学前に日本語を学ぶ機会があるのが望ましい。



教育委員会としてどういった支援が必要か検討を開始